令和５年度旭川未来会議２０３０ 女性活躍分野 第４回分野別会議　会議録

1　開催日時　　令和５年９月１４日（木）　午後４時から午後６時まで

2　開催場所　　旭川市第二庁舎　３階　健康相談室　（旭川市７条通１０丁目）

3　出席者（参加者）　※敬称略，五十音順
伊賀康弘，江良万里子，川村健太，坂井寿香，相馬淳，髙橋和恵，難波俊哉，長谷川愛実，山田貴子

4　出席者（市側）
（運営事務局）
女性活躍推進課　　松山課長，藤田課長補佐，青木主査，麻生主任
（統括事務局）
広報広聴課広聴係　乙坂主査

5　会議の公開・非公開　　公開

6　傍聴者　　０名（市民等：０名，報道機関：０名）

7　内容

⑴　議事「提案内容及び報告資料について」

【報告会資料の案についての意見交換】

（参加者）
流れとしてはいいと思うし，とてもまとめられているとは思う。ただ今回の会議の位置付けが，市民の声を市長にぶつけてみるというものなのであれば，皆が集まっている良さと悪さが出ていると思った。たくさん言ってはいるのだが，結局何なのという話になっていて，正直，ここに出ているようなことは市長も考えているのではないかと思う。そうであれば「やれること」というよりは，今津市長をはっとさせるような事を出したい。大枠を捉えすぎていて，プレゼンとして薄くなっていると思う。もっと一つでも二つでも具体的に踏み込んで，例えば予算も具体的に出した上で「やりませんか」というところまで提案としてまとめられなければ，活動的で忙しくしている市長の心には残らないと思う。なので，皆の意見をまとめるのはいいのだが，その中でどこにフォーカスして，どこを一番伝えたいのか，発表時間が１０分と限られているので，そこを深掘りして伝えてはどうだろうか。個人的には資料で挙げている三つの課題それぞれに対して一つずつの政策を提言として，「こういうふうにしてくださいよ。でなければ女性活躍できませんよ。」みたいなところまで市民として僕たちが言うところまでやったら，もしかしたら少しは市長の心に残ってくれるかもしれない。羅列するだけでは，多分何も残らないのではないかと思う。

（事務局）

そのとおりだと思う。まさに今，言われたようなところに持っていきたかったのだが，皆さんの意見をそこに集約できなかったというのが正直なところである。なので，もし本日の会議で焦点を絞り，そこで考えた，より具体的な施策を提案していくのは方法だと思う。

（参加者）

既に出ているものを一つに絞るとなると，それに対して賛成・反対がでてくると思うので，先にそれをどうまとめるかを決めた方がいい。多数決でやればいいとなるなら，それでやるとか。それを会議の意思ですと言って出したらいいのかなと思う。

（事務局）

では，いま提案のあった具体的な施策を報告するのか，ここまで考えてきた全体を報告するか，具体的な施策を提案するのであれば，それをどうやって選ぶのかについて，全員から意見を頂きたい。

（参加者）

今回の報告資料案としてまとめてもらったものを見て自分も整理でき，そうだよなと思いながら拝見した。ただ今意見があったとおり，刺さるものを二つ三つ出せる形になるとすごくいいなと私も思う。それをどうやって出したらいいのか考えてみたのだが，これだけ範囲が広く，参加者の立場もばらばらなので，どれというのはとても難しいのだが，二つくらいの切り口で絞っていくのがいいと思った。一つは参加者の中で課題感が強いもの，もう一つは実現可能性が高そうなもの，すぐできそうなものという切り口で考えたらどうかと思った。それで今日の会議で具体的な案まで固めてみてはどうだろうか。

（参加者）

私たちが時間をかけてやってきたことがこんなに集約され，とりあえず全部話したことがここに出されている中で，やはり，こういったことが話し合われましたということはまず伝えることだと思う。そしてどれもこれも，これからの女性活躍については課題だが，今回においてはここを推しますというのは絞って伝えた方が，より届きやすいなと思う。そして今あった意見の切り口で絞るというのもいいと思った。その中で，問立てと課題解決としてまとめた１番目から３番目は，やはり女性が働くことの障壁だったり，問題点とそれに向けた課題というのがあり，また問として三つも出ているので，まずはここが推しで，今後も続けていくのなら，今回はこれ，来年はこれといった形で順次先を見越しながらも，現段階では私たちが一致したのはこれです，という形にするのが伝わりやすいのかなと思う。

（参加者）

たった４回の会議でそこまで議論したというのもあるが，せっかく皆で集まって話したのだから，もうちょと具体的な，これについてやったらどうだみたいなことがもっと出せたらという提案はまさにそのとおりだと思う。言葉もすごく当たり障りのないような文章になっているところもあるので，せっかくだから文言一つ一つも皆で話し合って，特定のものについてもっと細かく言う方がいいのではないかというのが感想である。特に私は前から言っているとおり，問立てと課題解決の４番目の市議会のことで，ペア制など具体的なことをやっている国が既にあるのだか

ら，それを全国に先駆けて旭川がやるなんてことになったら本当に面白いと思うし，そういうことを提言したときに，今津市長がどう思ってくれるのかなということをとても思った。

（参加者）

ここまでの皆さんの意見を本当に同意の気持ちで感じている。報告資料案を見たときに，本当にきれいにまとまっているのだが，何かちょっともう一歩，これで終わっていいのかというのも少し感じていて，だけど確かに４回の会議ではここぐらいまでしかまだできないなというのもあった。なので，意見のあったように具体的なのを二つぐらいに絞るという方法もあるなと思った。また，私が参加しようと思ったのは「女性の健康課題について知ってほしい」というものがあったので，例えばここに参加している企業の中で，ちょっと試しにやってみて，いいですよというところがあれば，こちらで女性の健康課題についての資料を作って提供してみたいなという気持ちを持って参加した。そこまでの具体的なものではなくても，もしも一つ試してみようということであれば，そういうこともできると思ったり，ここにいるメンバーで市議会に一度行ってみようとか，というのも具体策なのかなと思った。

（事務局）

この女性活躍分野の会議は，本当に前向きに色々考えていただける方が集まったので，今回の報告会で何か提案するというのは，もちろん会議の命題として持っているが，この中で何かやってみたいというのは確かにあるので，もし可能なのであれば，未来会議から派生した形でやっていくというのもいいなと思う。

（参加者）

私はこの未来会議に参加する上で，趣旨として，市長に提言する機会というニュアンスで捉えており，具体的にこういうことを提言しますといったイメージをずっと持っていた。そういうものを考えるのは難しいなと思ったのだが，この資料を拝見していて，具体的にこれをやるんだというものを提示していった方がいいのかなと思う。例えば「カジュアルに参加できる仕組み」については，課題解決策として挙げたことをやるのはどうかというのがいわゆる提言になると思う。数多く提言すれば色々なことを伝えられるが，やはりぼやけてしまうので，これに対してはこれをやるんだというものを一つ詳しく提言してはどうだろうか。資料の構成は素晴らしいと思うので，四つの課題に対する提案が二つずつあり，それに対して一つこれをやりますという形で組み立てられるといいのかなというのが一つ。ただそれをやると全部について考えなくてはいけないので，時間の都合で考えるならば，先にも出たが，三つくらいの課題に絞って，これらをやったらいいと思うというような組立てをしたらいいと思う。

（参加者）

ここまで出た意見のとおりだと思う。あとは，資料を見ていて，挿絵があるとぱっと直感的に分かりやすいのかなと単純に思った。例えば「カフェなど気楽な場所での開催」のところにはカフェとか，絵でも写真でもいいのだが，ぱっと見で直感的に分かるような，具体的に二つ絞ったところにそういう絵があるといいかなと思う。

（参加者）

例えば，すぐできそうなこと，ちょっと頑張ればできそうなこと，大事そうだけど結構時間がかかる将来的な大きなビジョン，みたいな強弱をつけてやったらいいのかなと思った。あとはプレ

ゼンの手法的なところで言うと，文字が多いので，先ほど意見があったように直感的に見られるものの方が伝わりやすい。文字が多いとその文字を読みたくなるのだが，話している言葉と文字が一致していないと，スライドの内容を見切れずに次のスライドに行ってしまう。なので，スライドに書いたことはきちんと説明するか，もしくはスライドの文字を減らすかである。あとは１ページ目の「アンコンシャスバイアス」についても，誰もが分かる言葉で表現する，もしくは「アンコンシャスバイアスとは」というところを一度説明してから説明に入るといった，そういう分かりやすさが必要だと思う。

（参加者）

私は毎回参加させていただいているので，資料を提供してもらった段階で，うまくまとめてもらったと思ったし，改めて，これ全部が関連していて全てが重要なキーワードということで皆さんで考えてきたかなと思う。だからこそ，それらを全て網羅した形であえてまとめとするのか，深めて提言として絞るのかだと思ったので，全員の考えで決められたらなと思う。

（事務局）

皆さんの意見として絞って提案した方がいいということだったと思うので，具体的な提案としてどの話を出したいか，それをどう決めていくか考えたい。

（参加者）

決めた後に考える時間を取らなければならないから，まずは多数決で決めてはどうか。

〈一同同意〉

（事務局）

では，この四つの問いにそれぞれ対応した施策を発表したらいいという方はいるか。そうでなければ，四つの問の中から更にどこか一つか二つに絞って出すということでよろしいか。

〈一同同意〉

（事務局）

では，まず四つの問いの中で多数決を取る。複数に挙手してもいいので，最終的に数の多いところで決める。

〈多数決：問１～５者，問２～３者，問3～５者，問４～３者〉

（事務局）

では問１と問３の二つで決定していいか。

〈一同同意〉

（事務局）

では問１について，大枠のアイディアとして「共働きの円滑な継続に対するサポート」と「親の負担を軽減する環境づくり」があるので，多数決をとる。

〈多数決：共働きサポート～６者，親の負担軽減～３者〉

（事務局）

では問１については，共働きのサポート体制構築で決定する。

次に問３の「働き方に関する体験機会や個別アドバイス」と「多様な働き方のマッチング」について多数決をとる。

〈多数決：働き方に対するアドバイス～５者，多様な働き方のマッチング～４者〉

（事務局）

では問３については，体験機会やアドバイスの提供に決定する。

ここから先はどうやって決めていけばいいだろうか。

（参加者）

提案なのだが，こうやって話していても決まらないので，２グループに分けてしまって，その中で話してしまった方がいいのではないだろうか。

〈一同同意〉

【グループワーク】

《問１グループ》

問「どうすれば，支える側も支えられる側も過度な負担を感じず，お互いに理解・配慮しながらいきいきと働き続けられるだろうか。」

１　プロジェクト名

・あさひかわ（又は「ＡＳＡＨＩＫＡＷＡ」又は「旭川」）すみまセンエンプロジェクト

・こそだてっぴー認定制度

※キャッチーなネーミングでインパクトを与え市長の印象に残す。

※認定とセットで進める事業

２　プロジェクトのねらい

子育て中に急に仕事を休まなければならないときなど，周囲に対して申し訳ないという気持ちになっている女性は多いため，そのような場面でサポートする側にも支援を行い，サポートを受ける側の子育て中の女性の心理的負担の軽減を図る。

３　プロジェクトの内容

・子どもの急病などによる同僚の突発的な休みに対し，急きょ仕事をサポートしたりシフトを変わるなどの穴埋めをした人に対して，負担してもらった側が配付するために，企業が「すみまセンエンチケット」を支給する仕組み

・月２万円分のクーポンを育休から復帰した女性に配布（子どもが３歳になるまで）

・本来企業に負担させるべきものだが，中小企業ではなかなか厳しいので行政が支援（負担割合：企業１万円・市１万円）

※市に依存ではなく企業も痛みを伴うべきであり，そういう考えを持つ企業こそが子育て支援企業という整理

・学生の奨学金のように，認定した（こそだてっぴー認定）企業に対して補助する制度

・市が補助するかわりに企業が子育て支援に参画する仕組みをつくる

・クーポンは協賛企業で利用可能

※協賛企業（こそだてっぴー認定企業）は，地元企業のうち，子育て支援（応援）に関して一定の基準をクリアした，子育て世代に優しい企業

例：飲食店なら子どもに配慮したつくり（ベビーカーＯＫ・子ども椅子ありなど）になっているかなど

4　活用例

・職場にお菓子を買って配る（人数が多い職場などにちょっとしたお礼的に）

・仕事を代わってもらった人にクーポンを渡して使ってもらう（もらった人が自由に使える）

・職場の飲み会で１次会のあと抜けるときに，残った人に渡して２次会で使って楽しんでもらう

5　効果

・支える側の社員のサポート

・当事者の気持ちの上での負担軽減

・雇用継続につながる

・選ばれる企業に

・地元企業への還元

・子育て世代を応援する企業の増

6　目指すところ

最後には「スミマセン」がなくなる世の中にする。そういう旭川にしていこうという風土醸成と，そのための第一歩としての支援制度

7　プレゼンの構成（提案）

①プロジェクトの内容　②認定制度について　③活用例（ケース０１という感じで事例紹介）

④ターゲット，予算など　⑤締め（目指すところは）

《問３グループ》

問「どうすれば，自分に自信を持てない女性や現在の働き方に課題を感じている女性が，仕事でもやりがい・生きがい・楽しみを持つことができるだろうか。」

1　課題とニーズ

・仕事と子育ての両立など，女性は働く上で様々な困りごとを抱えている。

・共働き世帯がどんどん増えているが，働く女性をサポートする体制は少なすぎる。

・働く女性が抱える復職後の働き方やキャリア形成，両立など「女性の働き方」に関する悩みについて，個別のアドバイスや具体的な支援策の情報を得られる機会が持てない。

・公的な相談窓口として，就労相談や女性相談はあるが，働くことや働き先も巻き込んで伴走支援できるような仕組みはない。

・大きな企業では，そういった担当者を設置しているところもあるが，自社ではそこまで持てない企業が多い。

・キャリアコンサルタントの資格を持つ人は多いが，そのスキルを生かせる場は非常に少ない。

2　プロジェクトの内容について

⑴　女性活躍推進課に女性の働くことに関する常設窓口を設置

・キャリアコンサルタントの資格（最低限）を持つ女性を相談員とする。

・相談内容を「キャリア形成」「起業」「ワークライフバランス（両立）」「プライベート課題」「健康課題」の５つに細分化し，それぞれのテーマに異なる専門相談員を配置。日替わりなどで相談を受ける。

※複数の相談員を持つことで，その中の横の連携によって，相談内容に応じてより適当な相談員につなぐことが可能になる。

※入口として相談を受け，より専門の相談先や支援窓口につなぐ。

※女性専用で子どもも連れて行ける環境

⑵　窓口周知イベントの実施（年１回）

・常設窓口について知らない女性に，取組内容を知ってもらうための周知イベントを実施

※いくら一生懸命取組を考えても，誰も相談に来なければ意味がないので，いかに市民にアピールするかもきちんと考えて大々的なＰＲを行う。

※メディアに大々的に取り扱ってもらい，広告やＳＮＳも最大限に活用

⑶　類似の取組を行っている企業への支援

・補助金の支給や人的支援

３　効果

・女性の悩みに寄り添い助言することで，女性の就労継続を可能にし，働きがいを生み出す。

・取り組む企業が増え，職場環境や働き方の改善につながる。

・自社で取り組んでいる企業の従業員も内外に相談窓口があることで，より相談しやすくなる。

・キャリアコンサルティング有資格者の活躍の場の創出と，ニーズとのマッチングにつながる。

※いきなり個人的にキャリアコンサルタントに相談することは難しいため，相談の場を設置し効果を実感。その上で，より活用したい人は個人的な活用へとつなげられる。

・女性活躍に本気で取り組んでいる旭川市を内外に大々的にＰＲできる。

・市民課窓口を除いた来庁者は高齢者が多い中で，若い人にも親しみのある市役所になる。

【グループワーク発表】

《問１グループ》

実際に会社で働いている人の声を聞いたときに，キャリア中断によって給料が下がったり，ゆっくり休んでいられないというのが一つと，産休・育休や復職後の突発的なできごとに関して，周りに対して配慮しなければならないということ，この二つが自分の負担になるというのが課題なのではないかと考えた。

そこで考えたプロジェクトが「旭川すみまセンエンプロジェクト」である。どういうものかと言うと，まず産休復帰後の方に月２万円を旭川独自通貨「すみまセンエン」２０枚で，毎月配付する。ただこれは企業側がその半額の１万円を負担することとして，企業側が１万円出すと旭川市からすみまセンエンが２万円分もらえる。このすみまセンエンは色々な使い方ができて，例えば，子どもが急に熱を出して仕事の途中で帰らなければならない時に，「すみまセンエン」を使って職場にお菓子を買ってくるとか，もしくはちょっと抜けるために隣の人に仕事を全部お願いするときには，「すみまセンエン」と言って渡すとか。もしくは先ほど話したキャリアが止まっちゃうことによる収入減を補うなど。そして「すみまセンエン」は旭川の認定企業で使えて，認定企業は，例えば旭川の子育てを応援している飲食店だとか，旭川が本社で旭川に納税している企業とかそういう企業に限定し，そこで使える。企業側も１万円負担するので，企業側が負担すると「旭川こそだてっぴー認定企業」として認定マークがもらえるので，それを就活イベントや企業ＰＲに使える。使えるお店側も，例えば飲食店だったら，子育て用

のメニューとか，子供用の小さな椅子をちゃんと置いているかとか，お菓子屋さんだったら，ちゃんとベビーカーが入れるように段差を無くすとかいうことをしているといった条件を付け，認定マークのあるところで使えるようにする。これを最初に思いついたのは，東京の大企業が育休を取得する人の周りの人に手当を出すことで「すみません」という気持ちをなくそうという話を聞いたからで，これは本来，絶対に企業がやるべきだと思っている。ただ旭川の中小企業では，自分たちでそういうふうにやるっていう踏ん切りも，知識もお金もない。だからこそそれを支援する形で市として入ってもらう。ただ，本来は企業がやるべきことなので企業も負担し，そして最終的には旭川市自体が，子育てのこととかで「すみません」って言わなくていいような市になればいいというストーリーでまとめられればいいと考えた。そして，予算で幾ら必要かというところまで市に調べてもらって，市長に提案したいと思う。

《問３グループ》

前提として実現可能なものという趣旨から入って考え，平たくいうと相談窓口の設置を考えた。行政などでは現在様々な窓口があるが，どちらかというと福祉関係の相談窓口が多い印象なので，そうではなく，ここは女性活躍分野なので，これから働こうと思っている人や今働いている人がキャリアプランなど様々な悩みを抱えている中で，その方々への相談窓口を設置するというものである。キャリアコンサルタントの資格や色々な経験値を持っている方がアドバイス側に回り，今の市役所は来庁者が年配の方が多いので，若い人にも来てもらえるような取組も行いながら働く女性にも来てもらいたい。その中で相談内容は多岐にわたると思うので，それぞれの内容によって個別のアドバイザーが対応し，基本的には一対一の相談で，女性に相談に来てもらい，共働きであれば夫婦で来てもらう方が，家庭の中でもお互いの働き方とかの課題解決に入っていけるのかなと思うが，それはどちらでもいいかなと思っている。ただ，設置したとして，広報誌で周知するだけでは見ている方も限られるかもしれず，なかなか利用につながらない可能性があるので，例えば大々的なイベントの中でこういう窓口がありますよという周知をする。あとは各企業を通して職員にも周知してもらったりなど，周知の方法も色々考えていくべきだと思う。ＹｏｕＴｕｂｅやホームページなどの広告媒体も使いながら設置窓口を広く知らせる。もちろん行政で設置はするが，企業側もできるところは社内にそういう専門家を置いたり，経験値のある職員が相談を受けるというのもいいと思う。それに対して行政もフォローする。それは人的フォローでもいいし，補助金などの資金的支援でもいいと思う。そして行政と民間で，働く女性，働こうとしている女性が気軽に相談できるような窓口をそれぞれが設置するという意見になった。

（事務局補足）

皆さんから，キャリア形成などに対する悩みについての相談窓口設置が必要だという意見と，キャリアコンサルタントの国家資格を持つ人は多くいるが，意外とその資格を生かす場もないという話があり，さらには，ただ働くことの窓口と言っても，何を相談できるのか，本当に行っていいのか女性側が分からないので，例えば日替わりや週替わりで，キャリア形成・起業・ワークライフバランス（両立）・プライベート課題・健康課題についてみたいなテーマごとに分けて受け付け，このことについてはこの日に行けば専門的だったり知識のある人が相談に乗ってくれるという窓口にする。あとは，女性活躍推進課には女性相談があるので，窓口も二本柱で，困難の課題解決というところと，活躍していく上での課題解決というそれぞれの相談窓口

を持っているのも外に対してのＰＲにもなる。あとはニーズとして，働くことについての悩みとか課題をどこに相談すればいいのか分からず，ピンポイントの相談窓口もないということで，そういう窓口を設置するという提案にまとまった。

⑵　議事「報告会の発表方法について」

（事務局）

報告会資料について，本日の会議での意見を反映させた上で最終的な調整は発表者と調整すると言ったが，内容が大きく変わったので，改めて叩き台を作って全員にお送りし，デザインを含め，皆さんから意見をもらいたいと思う。なるべく早く叩き台を全員に見てもらった上でそれぞれからアドバイスを頂きたいので，少しお手間だとは思うが，全員が納得いく形で最終的な発表資料にしたい。週１回ぐらいのペースで見てもらいたい。

（参加者）

Ｚｏｏｍミーティングとかでもいいので，発表までの間に会議をもう１回くらい挟んでもらえればありがたい。

（事務局）

そういう機会を設定し，自由参加ということで可能な方には御参加いただきたいと思う。

あと，発表者だけ決めさせてもらいたい。男女１名ずつで発表してはどうだろうか。

〈一同同意〉

（事務局）

では自薦でも他薦でも，どなたかいらっしゃるか。あとは，仕事の都合などで急遽当日来られないことに備えて補欠の方もそれぞれ決めてほしい。

〈発表者の決定〉

女性　長谷川愛実氏（補欠　山田貴子氏）

男性　川村健太氏（補欠　及川雄太氏）

（事務局）

本日の会議は以上となる。